



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
TEL:0593-32-0733

掲示板法話

## 仏事は「人間共育」の現場

### 人生の幅と深さを知らされる

「人は多いが人間が少なくなつた」。  
この指摘は、現代社会の闇を見事に言い当てています。人と人間、似ているようですが、違います。「闇」の有無により、「闇から闇へ」でなく、「闇から光へ」と人生が変わるのではないのでしょうか。

「闇」とは間柄、相互依存関係であり、因縁生起の世界。それなしに我々一人ひとりの人生はありません。親子、兄弟・姉妹、夫婦などの肉親、親戚関係から始まり、隣近所、学校、会社など組織における人間関係の濃淡、有無によつて人生は支えられ、豊かにもなり、逆に貧しくもなるのです。

近年、三世同居が減り、高齢者世帯や独居世帯が増えるにしたがい、いわゆる「無縁社会」の闇が深まっています。「子供たちの世話にならん。干渉しない、されたくない」などと物分りの良い個性尊重、相互不干渉主義のツケが今、高齢世代の孤独化を招いているように思われます。

他方、若者世帯は経済の疲弊で育児の余裕を失い、不登校、引きこもり、児童虐待などの渦中にあえいでいます。



それは政治や行政だけの手に負える問題ではありません。我々が共に背負い、引き受けていくべき課題です。お寺はコンビニの数を超えるということですから、仏教徒、一住職として闇の世に光を見出したいという思いが募ります。

ご門徒方の中に、見事に「闇」を取り次ぎ、世代を超えて仏法が相続されている手ごたえを感じる好例があります。年回法要には一族郎党が参集し、新たな人間関係が広がります。「手間返し」は世代を超えた文化学習の機会となります。報恩講やお盆参りの参詣者は限られていますが、和やかな人間教育の場でもあります。息子夫婦と予め日程調整をして勤められる仏事には孫たちも参り、一緒にお勤めをし、聴聞もされます。お茶菓子を運ぶかわいい孫の姿を見て祖父母が微笑んでいます。温かい仏事は世代の差を越えた、幅広い人間教育の機会にもなっているのです。

人と人の「間」、「待つ」という時間の「間」、自我の摩擦を和らげる幅は緩衝空間。この「三つの間」が感受される人間教育の現場から「人間成就」の道、往

生浄土の人生が開かれるのではないのでしょうか。

人間教育は「共育」であり、そこから人生の「幅」と「深さ」が知らされます。「人生は長さだけではない。幅もあり、深さもある」と知らされるところに、無縁社会の闇はありません。

欧米型の個人主義の限界が見えてきた今日、柔軟な幅のある生き方が求められます。「人生に苦勞や失敗は付き物だ。それが娑婆だよ!」。仏教徒なら皆ご存知の、お釈迦様の説かれたメッセージは心の病の特効薬です。問題の根本をしっかりと見直して、腹据えて共に生き抜いていく道を歩みたいものです。

「人は多いが人間が少なくなつた」。



写真左上:8月のキッズサンガ  
左下:朝顔・蔓の「亮爾」背景にご本人初出勤!



### ☆行事ご案内☆

## 9月の門信徒会例会

9月16日(日)夜7時半

- ① 意識・正信偈の拝読練習
- ② 意識付・仏説阿彌陀經、和讃、拝読と味わい

### ◇キッズサンガ

9月8日(土)午後4時より 今月は都合で第2土曜日だよ!  
お友達も誘ってきて下さい。 毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK ガム付。年中無休

◇三重組コーラス 9月3日(火) 午後1時半 智積西勝寺様  
10/2(火)、11/5(月) 11/15(木) 夜西勝寺  
報恩講 11/22(木) 西本願寺御堂演奏会

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。

「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設4年で8万2千訪問、一日平均100ほど、悩み相談もOK。

☆長男潤爾の初著書『読んで旅するヨーロッパ』(三学出版)  
6月下旬発売。2千円。歴史的考察を加えた本、表紙は若嫁

【一縁会テレホン法話】 059・354・1454お電話を!

5人の僧侶が週替わりで担当、3分間で法話が聞けます。

☆御礼 平成24年度門信徒会費納入に際して、8月上旬に巡回させて戴き、ご協力戴きありがとうございました。他所の方で前もって寺にご持参された方には感謝いたします。

☆小杉町仏教会「追弔会」9月23日午前・午後 光念寺様

☆名古屋別院750回忌法要 10月7日(日) 7名参拝

# 坊守スケッチ

## 足袋の汚れとイジメ問題



イマドキ白足袋を履く人といえ、坊さんか、和服を召す女性くらい。真っ白な足袋裏は僧侶の身だしなみ。わが住職は履き終えた足袋をすぐに洗濯機へ入れるのではなく、先ずブラシに洗剤をつけてゴシゴシと手洗い。あらかじめ汚れを落としてから洗濯機に入れる。ちよつとした心掛けたが、白さと清潔感の違いは大きい。前住職の時代からの習慣なので、坊守としては有難い。参詣者に背中を向けて座る立場としては、汚れた足袋裏を見せたのでは、僧侶としての品格が問われる。亡き前坊守は「善正寺にお参りしたら足袋が汚れたと言われぬ様に、お参りが勤まる前には畳を拭くように」と私に教えた。「だがちよつと待てよ。いくら畳をきれいに拭いたところで、外の縁側が汚れていたら、畳の汚れも必然的。参詣者は外縁から上がってくる。汚れの元凶は外の縁側なのだ！そこをきれいに拭けば、畳の汚れも少ないし、足袋裏も汚れなくて済む。一番大事なのは、足袋の裏をゴシゴシ洗うことではなく、縁側の掃除をすること。物事は結果だけではなく、原因を知ることでも大事だと気付いた。

私達はとかく目の前の都合な現象のみにとらわれて、それを取り除くことに躍起になる。目先の現象を解決

したところで、本当の原因を突き詰めなければ、同じことの繰り返し。本来の解決にはならない。

例えば最近マスコミで大きく取り上げられたイジメ問題も同様だ。結果の応急処置に追われて、根本的な解決策になっていないのではないか？

大津のイジメ自殺事件をきっかけに、全国的にイジメ問題が噴出した。学校や教育委員会には任せられないという被害者側の不信感もあって、警察に訴えるケースが続出している。

イジメは子供の家庭環境や家族・友達の間関係、学校の様子など複雑な原因が重なり合って事件を引き起こす。隠された背景の原因を一つずつ検証しなければ、真の解決にはならない。池上彰氏は著書『仏教って何ですか』で次のような解決のヒントを出す。「私達人間には煩惱と呼ばれる破壊的な感情が備わっている。煩惱におかされた状態で行動すると、誤った行いとなり、結果として苦しみに陥る。逆に他者に対する優しさや思いやり、愛や慈悲の心を動機とし、よい行いをすると将来的には自分の心に安らぎと平和を得ることが出来る。しかし悲しいかな、現代の日本人は、仏教が身近にあっても、いつも急いでいるので、仏教をじっくり学ぶ時間や実践する

暇が無い。その結果その価値に気付かず自分の心を見つめる時間が無い」。足袋裏の汚れからイジメ問題に発展した『因果応報』の道理は、仏法の要！私達は毎日僅かでも自分の心を仏法に照らし、見つめる時間を持ちたい。

### ★寄稿

四日市市 川崎孝一

★終戦日 迎える時期は 思ひ出す

配りし新聞 タブロイド単

★アクティブに 取材を請うも

記者優し 高がアサガオ

然れど 蔓文字

四日市 釈妙水

★吾子泣けば 大人まいまい

夏座敷

### ★ホットニュース

★10月7日(日)名古屋別院親鸞聖人750回大遠忌法要7名参加割り当て

★長男潤爾の初めての著書『読んで旅するヨーロッパ：イタリア、フランスを中心に』(三学出版・定価2千円、新発売)ヨーロッパを単なる観光だけではなく、深い歴史的考察を加えた一味違った本。是非一度お読み下さい。

★善正寺のホームページ「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設丸4年(8万2千アクセス突破1日平均1000訪問。悩み相談メールでも歓迎。

### ★カンパ有難う

島本邦子様・他匿名様お志・葉書・切手有難うございました

お悔やみ申し上げます

★川崎みつ穂(8月5日) 7・96歳

四日市(合掌)

### キッズサンガ・杉の子合唱団

★9月8日(土) 今月は都合で第2週土曜日、午後4時より、間違えないように。友達を誘って来てね！鐘撞きは年中無休で夕方5時。ご褒美に当り付きガム

### ♪三重組コーラス♪

★練習・智積西勝寺様 午後1時半  
9月3日(月)・10月2日(火)・11月5日(月)

※11月15日夜、西勝寺報恩講演、※1月22日京都御堂演奏会9回目

### 平成24年度今後の主な行事予定

◇「報恩講」11月2日午後1時半と夜6時半・3日午前10時・午後1時三全  
仏婦報恩講 講師大畠信隆師(岸和田)  
今年から報恩講が11月に変わりますので、よろしく願います。

◇「秋勧進」11月23日午前

◇「お内仏報恩講」12月1日(土)夜

### ★編集子より

「善正寺だより」第二二五号をお届けします。◇オリンピックのメダリストたちは異口同音に周囲への感謝の言葉を語りました。悔し涙を乗り越えたところに喜びの涙がある。◇他方、不登校、引きこもりが増えて、とか？「人生にリスクや苦勞は付き物だ」と腹を据えて生きることが仏法は説く。この醍醐味を子や孫に伝えるのはあなた(仏教徒)の役目ですね。如何でしょうか？

お盆が過ぎ秋の気配が感じられるようになりました。若嫁の祖母の自叙伝に「過去と他人は変えられませんが未来と自分は変えられる」と書いてありました。なるほど、自分の心の持ち方ひとつで幸せになれるなあと感じ心に刻みました。池上彰氏は父親の葬儀に直面して、自分の家の宗教は何だったのだろうと戸惑ったそうです。それまでには押し過ぎて宗教には無関心。無宗教を自認する人も、いさ大切な人を亡くしたり、自分の病気がさっかりして宗教に関心を持つ人が多いようです。混迷する社会にあえて将来に不安を抱く人や悩みを抱えて救いを求める人が大勢います。彼らに分かり易い言葉で生きる指針を与えることができたら、どんなに心丈夫でしょうかと、それに出会う為には、日頃の心掛けが必要で、お寺で聴聞するのが一番よいのですが、忙しい人には叶わないかも知れず、そういう人の為にはブログ(イタネト)の日記を書くことをオススメします。ネットに公開すれば、たちまち反応が寄せられ、生きる励みになります。苦しんでいるのは私だけではないという気持ちになります。他者への思いやりの心も生まれます。私達のブログ「佳職と坊守のつれづれ日記」は開設から丸四年、訪問者数8万人を超えました。毎日更新するのは大変な作業ですが、毎日の生き方を反省し、自分の心を見つめる貴重な時間になったと感謝しています。合掌

平成二十四年九月 善正寺坊守拝